

令和3年度 第1回 人生支援計画策定委員会 議事録

■日 時：令和3年7月27日（火） 14:00～16:10

■場 所：のいちふれあいセンター 第1, 2研修室

■出席者：34名（策定委員15名、行政15名[市長含む]、傍聴4名）

1. 開会

①市長挨拶

人生支援計画は、香南市の施策で「丁目」番地の一つ。皆様のご意見をいただきながら、現在進行形でバージョンアップしていけたらと考えているのでよろしくお願いします。

なお、現在香南市で協議していることの一つである「奨学金返還助成事業」について少しお話ししたい。現在、商工観光課で制度を実施しているが対象者があまりいない状況。今後、国の方でも若者の定住施策として実施していくこともあり、今まで行政とつながりが薄かった大学生、20代の若者との新たな関係を築くものとしても「奨学金」にどんな形で支援をするか、スピード感を持って協議していきたいと考えている。

②委員の委嘱及び自己紹介

③委員長及び副委員長の選任について

立候補、推薦なし。事務局案…坂本委員長、田内副委員長→承認

④委員長挨拶

これまでも長い間関わらせてもらっているが、毎年バージョンアップしながら進んでいると思うので、引き続きよろしくお願いします。

2. 議題

①R2年度 数値目標及びKPI 評価書について—各部会事務局長から報告【資料2】—

<意見交換>

（委員）

No9 こうなんファミリーサポートセンター会員数について、「おねがい会員に比べてまかせて会員の数が伸び悩んでいるためB評価」ということだが、現在定期的に利用しているおねがい会員は6人で、いざという時のために登録だけして普段は使わない会員が多い。そのため、「おねがい会員の数だけが増えると支援の手が足らなくなる」ということは考えにくい。もちろん今後も会員数を増やすことに努めていくが、現状、ある一定事業の意義は果たせていると思う。

そういった状況も踏まえて、会員数だけで評価するのではなく、活動実績や活動状況での評価にしてはどうか。

（こども課長）

指標の設定については、今後、部会や事務局会で検討していきたい。

(委員)

移住関係の指標については努力の結果概ね良い評価となっているが、今回から新たに加わったNo45地域おこし協力隊任期満了後の定住者数の実績がゼロになっているのが残念。他の自治体では活動内容を限定せずに募集し、多様な人材を雇用して定住につながっているところもある。また、「地域プロジェクトマネージャー」という新たな制度もできたので、企業経験がある人等の活用も視野に入れて工夫をしてもらえたらと思う。

地方で暮らすことに魅力を感じている大学生も一定数いる。どこにいてもオンラインで授業が受けられるような環境にあるので、大学に通いながら地域おこし協力隊をしませんか、といった形の募集も考えられるのではないかと。

(地域支援課長)

現在、香南市の地域おこし協力隊は「地域の課題解決のためのミッション型」での募集となっている。多様な働き方があると思うので、関係課とも協議して、香南市の活性化につながる人材の雇用に取り組んでいきたい。

(委員長)

大学生が休学してそのまま地域おこし協力隊になったケースもある。就職も、企業にではなく自分で喫茶店を開業したり、古民家を再生して民泊を始めたり、いろいろな働き方がある。

(委員)

移住するには仕事だけでなく住むところも必要。移住者は、将来の生活も考えて移住すると思うので、生活しやすいところへおためし住宅を作ってアピールした方が効果があるのではないかと。

(地域支援課長)

香南市は、中山間地域もあれば、利便性の高い市街地もある。その中で、まずは中山間地域の人口増加を考えて、おためし住宅を作った。今後、市街地へのおためし住宅の整備については課内でも検討をしているところ。

(委員)

No20地域学校協働本部における1校あたり年間活動のべ日数について、支援活動をしているのはボランティアか、雇用されている方か。また、支援する方は足りているのか。学校のニーズが今後どう推移するのかわからないが、カリキュラムが今後大きく変化していく中で今後ますます必要になると思われる。その中で、実際支援しているのは地域のボランティアが中心なのか、職員を雇用しているのか、他市町村と連携しているのか、今後の方向性があれば教えてほしい。

(学校教育課長)

現時点では、各学校に地域学校協働本部として常時複数人、という体制はとれていない。香南市では別に予算を取り「支援員」という形で雇用している。「生活学習支援員」と「校務支援員」があり、「生活学習支援員」は学習指導等、直接子どもに関わることがある。「校務支援員」は、資料の印刷等、教員の事務を支援するために入ってもらう。各学校から必要人数を出してもらい、雇用している。今年度4月時点で希望が出された人数については配置されているが、年度途中で多少の変動もある。

②R3年度の実施状況について

- ・各部会報告について ー各部長から報告【資料3】ー
- ・R3年度の取り組みについてー各部会事務局長から報告【資料4】ー

<意見交換>

(委員)

幼年就学期部会の朝食の摂取について、健康対策課のYouTubeの動画を見たが、わかりやすく、短い時間でまとめられていた。早速、ケーブルテレビでも流させてもらえたらと思う。食や健康増進については住民のためになることなので、今後も連携して取り組みをしていきたい。

(健康対策課長)

現在、約20の動画を登録しており、閲覧数は700~1,000。昨年度はコロナで離乳食相談を中止したのでオンラインでも相談できるように対応した。今後も啓発の幅を広げていきたいのでご協力をお願いしたい。

(委員)

近所にも大きな家で高齢者のみの世帯があり、今後支援が必要になるだろうと思う。住み慣れた環境で暮らしていくためには行政のサポートも必要だが、やはり家族のサポートが大きいと思う。家族のサポートを働きかけたり、リフォームを促したりはしているのか。家族の介護のためにUターンしてくるのも移住の1つになる。

(高齢者介護課長)

家族と一緒に住んで介護してもらうのが1番良いと思う。例えばごみ出し支援について、県外の家族やご近所の方が支援してくれているケースがあり、行政の支援を拡充することで、せっかくの家族、地域のつながりを壊してしまわないように注意したいと考えている。それぞれの家庭で事情があり家族介護が難しいケースもあると思うので、地域と連携して支援をしていきたい。

(地域支援課長)

現在、移住が多いのは結婚をきっかけに、という若い世代。介護が理由の移住は退職後の方が多く印象。今、そういった方をターゲットにするのは難しいが、1つの策として考えていきたい。なお、香南市にUターンする方には引っ越しの補助金があるのでそういった制度も含めて移住促進について取り組んでいく。

(委員)

コロナで高齢者の外出機会が減っている。わざわざ集まりに行くのは気が引けるという方でちょっとした話をできる人がほしいと思っているのではないかと。孤独を感じさせないように、民生委員等に声かけをしてもらったらいいのではないかと思う。

(高齢者介護課長)

1人暮らしの高齢者については、地域と関わりが持てる体制が大事。地域とのつながりのきっかけになるのが民生委員さんだと思う。また、地域包括支援センターからも訪問するので情報共有できたらと思う。支援が必要な方を知るきっかけは地域の方からの情報提供になるので、地域のつながりを大事にしていきたい。

(委員)

小学校へ読み聞かせに行っていて、子どもの元気がなくなっているように感じるのが気になっている。民生委員や交通指導員が通学路に立ってあいさつをしているが、子どもの声が聞こえてこない。子どもの声が聞こえる元気な香南市になってほしい。

(学校教育課長)

子どもや教職員に「挨拶できているか」というアンケートをすると、「できている」という回答が多い。「学校」という決められた場所であれば、子どもは挨拶できている。そこから出た途端、フリーの状況になるとできなくなる。これは大きな課題だと思っている。日常生活の中で、仕組みではなく習慣化させることを考えていく必要がある。

(委員)

コロナ禍で交流が遮断されて、マスクで顔が見えなくなってしまった。保育の現場では、離れた場所でマスクを外して表情を見せる等工夫をしている。参観日もないので保護者同士のつながりも減っている。

あいさつについては、大人が子どもに声をかけ続けることが必要だと感じている。

新聞に、口元が見えるマスクの記事が掲載されていた。まだ地方には出回っていないようだが、使い勝手が良いものであれば、取り入れていきたい。

(委員長)

子どもたちに「知らない人に声をかけられても反応しない」と教えている地域があるということも事実。毎日同じ場所、同じ時間に声をかけていたらそのうちあいさつできるようにはなるだろうが、地域によっては「反応しない」と言われているようなギャップがあるので難しい

ところだと思う。

今、大学の授業も入学式もオンライン。親が施設に入っているがその面会もオンラインでいつでもできる。世の中がすごいスピードで変わっている。

コロナで「暮らし」に注目が集まり、見直されている。土地や住宅が動いているという話も聞くので、移住促進のチャンスではないかと思っている。

③部会を超えて取り組みを進めるテーマについて

・外国人とのコミュニケーションについて 一人権課長から報告【資料5】ー

<意見交換>

(委員長)

外国人が一番困ると聞くのが「病気」と「災害」の時。命にかかわることなので、大事なことだと思う。

<議題①～③全体を通して意見交換>

(委員)

民生委員として地域を回っているが、仕事をしながらなので難しい。小さい子がいる若い世帯も移住してきているので、いろいろなところへの橋渡し役として動きたいと思っている。

地域協働本部については、香我美町では有償で大学生に来てもらっている。また、地域住民を対象に、草刈り等「自分ができること」のリストを書いてもらって、ボランティア名簿を作成している。

コロナでできなくなったことも多いが、いままでやってきたことを見直して、しなければならぬことは重点的に、メリハリをつけてやっていくべきだと思う。

(委員)

出生率のことが資料にあったが、自分の周りでも不妊治療をしている方が多い。高額な治療費があるので大変だと聞く。金融機関では不妊治療専用のローンもあるので、相談に来た方にお知らせしてもらえたらと思う。

(委員長)

少し前は「産学官連携」と言っていたが、今は「産学官“金”連携」ということで、金融機関との連携も進めてもらいたい。

(委員)

あいさつについて、子どもだけでなく大人もできていない人がいる。まず大人がしっかりあいさつをすることが大事。

レシピ紹介の YouTube は今回初めて知った。職場で夜勤の際食事を作る必要があり、自分たちのときは目分量で作っていたが、今の子はスマホで調べてしっかり分量を量って作っている。今の状況だとスマホがないと何も作れなくなるのではないか。失敗しながらでも自分で作って覚えていった方がいいのではないかと感じる。

大人が楽しくしていると、子どもも「頑張ろう」となる。こんな大人になりたくない子どもに思わせないようにしたい。

(委員)

Uターン補助金や奨学金の助成は非常にありがたいと思う。「香南市に帰ってきたいけど仕事がない」とか「香南市で起業したい」という話を聞くので、そういう人たちに何か支援があればと思う。

(委員)

それぞれの立場での課題が浮き彫りになったのではないか。コロナで社会構造、人間関係が変化している。どう対応していくかを考えていく必要がある。

ウェブ会議が多くなっており、便利かもしれないが、やはり対面で話をするのがコミュニケーションの上では重要だと思う。

(副市長)

事務局へのお願いだが、今回いただいた意見をきっかけに、どう考えていくのか、新しい施策につながるものがあるのか、今 KPI を出している事業以外にも改善するところがないのか、会が終わったあと、速やかに課内や部会等で協議の場を持って今後につなげてもらいたい。

④その他

・今後のスケジュールについて 一地域支援課より説明【資料6】一

(委員長)

委員からもウィズコロナ、アフターコロナの話や、こういう時代にどう生きていくかという話があったが、私もオンラインで授業ができるようになったので高知に帰ってきて農業をしながら大学の授業をやって、という状況。今、県外の大学生が「高知へ行きたい」と騒いでいる。これは、高知を舞台にした映画の影響。コロナ禍でなければかなり観光人口が増えていたと思う。このチャンスを活かすためには受入側の準備が必要。県外の事例では、アニメの聖地巡礼をした後、アニメが好きでその土地に住んで就職した学生も実際にいる。高知でも同じことが起こる可能性はあるのでチャンスを活かさないともったいない。いろんな方向から移住促進を考える必要があるのではないか。

3. 閉会